

## 山本浩之選手レース直後のインタビュー

Q 日本人選手 10 年ぶりの優勝となりました。山本浩之選手です。おめでとうございます。

「ありがとうございます。感無量です。」

Q 最後の最後トラック勝負になりましたね。

「最後トラックに入った時に、後ろにトラックで速い選手がついていたので、いつ来るんだろう、いつ来るんだろうとドキドキしながらの1周でした」

Q 今回のレースのポイントはスタート直後になると話してましたが、マルセル・フグ選手（コースアウトでリタイヤ）がいなくなった事でだいぶ変わったんじゃないでしょうか？

「そうですね。スタートをしてすぐフグ選手がまず飛び出さなかったのが、すぐこれは集団になるなと思って、本線に入った瞬間、フグ選手がバキバキと去年と同様にコースアウトしたので、日本人が3人とバンダイクだけになったので、これはもう国内選手の優勝はあるかと思って。あとは後ろに追いつかれないようにペースを作りながら、途中駆け引きしながらうまくコントロール出来たかなと」

Q 25回この大会に出場して、そしてつかんだ優勝です。

「本当にもう感無量ですね」

Q この月桂樹を頭に乘せて、今どんなお気持ちですか？

「こんなに気持ちがいいとは思いませんでした。ここがこんなに高いとも思わなかったのが、すごい見晴らしがよくて」

Q そして日本人選手としても 10 年ぶりというそういう歴史も作りました。

「マルセルがいなくなった瞬間に、国内の優勝が当然ありうるというパターンになったので、あとはこの3人の中から誰かいてもおかしくない状態で、途中走っていても西田がかなり強かったんですよ。朋樹はやっぱり昨日言っていたように『楽しむ』という感覚も見受けられたので、もう前に出るよりは後ろで集団の走りを見ながら、マラソンの駆け引きってどんなだろうと、自分の体力を温存しながら走っているような場面も見られたので、最後あんまり体力をためられるとマズイなと思いながらコントロールしてました」

Q 会見でも西田選手と鈴木選手、若手のこれからを担う選手だと言っておられました。その選手とデットヒートを繰り広げた事、今後についてどう思いますか？

「東京までまだまだ月日もありますので、この2人はもっともっと上がってくると思います。その2人に自分も押し上げられながら、今後も東京を目指して頑張りたいと思います」